

(2025) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(楽 只) 児 童 館 ・ 学 童 保 育 所

	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保	外から帰ってきてからのうがい・手洗い指導、ハンカチ持参の指導、手の消毒指導、後片付け指導、遊びのルール決め、汗拭きタオル持参指導	同じ内容の取組ではあるが、1年生から3年生、4・5・6年生の発達に応じて年毎に理解をふかめさせ、力が身につくよう継続して取り組んでいる。手洗い、うがいに関しては外から帰ってきたら必ずできるようにコップを置き声かけをしている。徐々に定着してきている。各部屋の遊びで内容が重なった時には子ども同士で話し合いの場を持ち遊びの内容などを考える環境を整えることを心がける。片づけは1つの遊びが終われば片付けて次の遊びをするように声掛けをする。
	健康の管理・情緒の安定	ケガの予防指導、水分補給指導、傾聴	集団活動の場では何を守るべきなのか考えながら指導を重ねている。年間を通して、また学童クラブの6年間をとおして何を獲得していけるようにするかという長期的な視野をもって子どもたち・保護者の方とともに生活づくりをしていきたい。また、統合育成においては、心配もあったが保護者や各学校とより深い連携ができたことで子どもの安全と安心、人権を守りながら生活を送ることができた。注意事項を話す時などは耳を傾ける姿勢が見られる。
	基本的生活習慣の確立	宿題、おやつタイム、行事等みんなと一緒に活動する内容が年間通して多数、整理整頓	学童クラブは塾ではなく遊びが中心。宿題に集中できずすぐに大人を捕まえて一緒に取り組んでほしいという思いを持つ子どもが多い。集中して宿題に取り組める環境やスペースを作る改善していくべき。ホワイトボードと名前カードを活用し、自分の帰り方などを各自で管理できるように工夫をしている。ロッカーの整理整頓。児童館は遊びを通して健全育成を図る場というスペースがあるので各学校・保護者と連携して宿題のあり方などを検討する。
	社会生活技術の獲得	交通安全指導、避難訓練指導	なるべく人通りの多い所を通っての帰館が望まれる。学校から児童館までの帰る道は毎日決まった道を通して帰りなるべく一人では帰らないように子ども達に指導。帰りが遅い子どもがいれば学校に連絡をし確認をとる。交通ルールを守り常日頃から子ども同士で声をかけあいながら生活をする。防犯、避難訓練など随時実施。
子ども育成機能	生活体験の拡大	子どもの安全と安心、人権を守りながら生活を送ることができた。注意事項を話す時などは耳を傾ける姿勢が見られる。	季節行事は毎年同じ取組であるが、子どもたちが喜ぶ、楽しい取り組みであるのはもちろん、どのような行事なのか、どのような文化が行事にあるのか明確にして、子どもたちとともに学び伝えていくことが大切である。
	自主性・社会性の養成	野外活動、社会見学、お泊り会	館外活動を実施してきた中で、大学生が高学年・学童クラブの良い見本となり、身近な大人像を築いてくれているとともに障がいのある児童とない児童の架け橋となってくれている。その姿から学ぶものは子どもたちにとって大きい。館外活動に参加をする大学生と子どもとの距離をちぢめるために事前オリエンテーションを通し、ふれあいの場をもち子どもの事を知ってもらふ。子どもたちに企画段階から関わらし行事に対してもっと興味 関心を持たせる。
	自立の促進と自主性の尊重	入館式、6年生を送る会など	6年生を送る会では、子どもたちが決めた遊び内容で、みんなあそびを行い、6年生に児童館で楽しかった思い出を語ってもらいながら、みんなで過ごした時を振り返る機会にもなっている。もっと学生にも担当を振り分け事業に参加してもらふ。みんな遊びのなかで、子どもたちの多様性を互いに受け入れ、自分自身がとるべき行動を各々が考えながら楽しめていた。終わりの会ではもっと子どもが話に興味を持つような終わりの会になるようにしていく必要がある。
子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供と交換	保護者懇談会、各学校・保育所との子どもの情報共有介助者、ボランティア懇談会、保護者情報交換	保護者会の参加が少ないのが課題ではあるが、個別懇談を実施した成果もあってか保護者が児童館に出向いてくれる回数は増加している。個別懇談が当日参加できなかった家庭については後日必ず懇談を受けてもらっている。来年度は保護者と子ども、保護者同士とのかかわり場を増やしていきたい。子育てについて語り合える関係づくりに、保護者の方の協力と連絡、広報の改善をはかりたい。介助ボランティアへの子どもの情報共有や的確なアドバイスなどの対応ができるよう職員の資質向上が必要になる。
	子育ての仲間づくり		各行事のお手伝いなど保護者の方の参加が増えてきてはいるが保護者の方々が、保護者の方が中心となる地域の行事や児童館まつりの実行委員会などを発足することが望ましい。保護者が参加できる行事を増やしていく。児童館側と密な連携をとって、地域の子育てネットワークを構築したい。保護者間との関係性も広げていく。
	子育てを支えるネットワーク形成		家庭にも学校にも居場所のない子どもたちもあり、社会性を培う機会もうばわれている。児童館が、子どもたちの居場所であってほしいと願う。学校とは今まで以上に密な連携をとり、職員も研鑽・努力する必要がある。また、保護者との日頃のコミュニケーションを通じて、信頼をえなければ、ならない。さらに来年度は、具体的なネットワークづくりを目指していきたい。